

西国巡礼・四国遍路・金毘羅参り

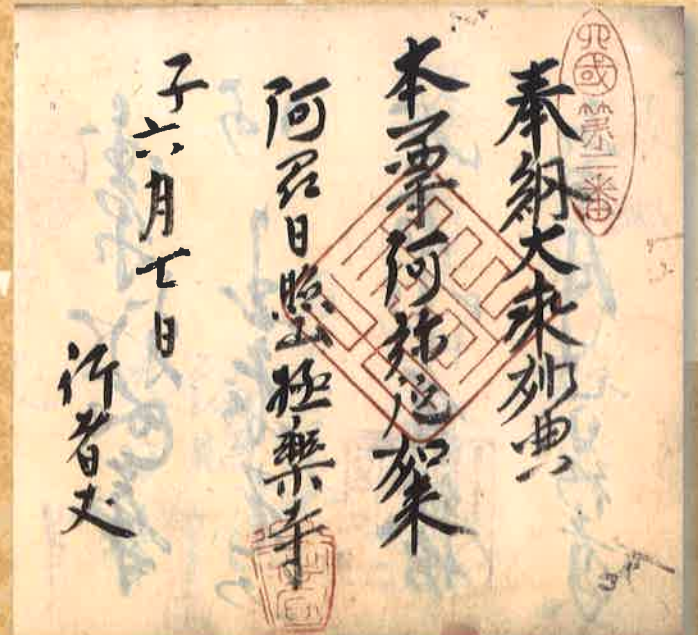
平成28年 7月19日(火)～9月23日(金)

時間 午前9時から午後5時まで(入館は4時30分まで)

休館日 会期中の月曜日、ただし9月19日(月・敬老の日)は開館し、翌20日が休館



明和5年5月17日 西国第十二番札所岩間寺納経印(個人蔵、展示期間:7月19日～8月19日)



明和5年6月7日 四国第二番札所極楽寺納経印(個人蔵、展示期間:8月20日～9月23日)



相馬霊場八十八ヶ所手引図面

弘法大師新四国霊場札所の数は八十九ヶ所、一國二縣二郡十ヶ町村三十部落に渉り、此手引圖の順路は十七里余あり、何れも地から打初め三日間、巡拜終り、又二三日、巡拜は巡拜す、時は總里數百五十里余なり。



相馬霊場八十八ヶ所手引図面

手引図面

大徳山長禪寺
延徳堂

明治末から大正時代 相馬霊場八十八ヶ所手引図面(取手市教育委員会蔵)

開催にあたって

明和5年(1768)、稲村の山崎庄兵衛は、西国三十三か所観音巡礼・四国八十八か所遍路の旅に出ました。山崎庄兵衛の巡礼・遍路の行程は、参詣した寺社の納経印(御朱印)を押した「納経帳」に記された日付から、詳しく知ることができます。

また文政7年(1824)、戸頭村の海老原喜右衛門は、四国の金毘羅参りの帰り道に、京都に学者として名高い頼山陽を訪ね、父への土産として山陽の書を得ました。道中の詳細は不明ながら、この時の山陽の書は軸装されて現在まで伝わっています。

今回の企画展では、江戸時代から近現代に至るさまざまな資料から、山崎庄兵衛と海老原喜右衛門の足取りを追体験し、旅の空にあった二人の心情に迫ります。

また当時これだけの旅をすることは、信仰心に加えて、山崎家も海老家も村役人を務めた家であり、相応の経済力があってこそ可能であったと言えます。そこで庶民は、身近に設けられた地方版の四国遍路を巡拝し、一つのお堂に坂東・秩父・西国の観音札所がまつられた「さざえ堂」に参拝することで、ご利益を願いました。その一例として、取手市に残る新四国相馬霊場八十八か所や長禅寺三世堂などを紹介します。

最後になりましたが、今回の企画展の開催にあたりご協力をたまわりました関係各位にたいしまして、深甚なる謝意を表して開催のあいさつとさせていただきます。

平成28年7月

取手市埋蔵文化財センター

説経節の上演と解説 — 小栗判官 —

演者：三代目若松若太夫(東京都指定無形文化財保持者)
日時：8月27日(土) 午後1時30分から3時まで(開場は1時)

歴史講座

演題：「御朱印でたどる山崎庄兵衛の西国巡礼・四国遍路」
講師：埋蔵文化財センター職員
日時：7月30日(土) 午後1時30分から3時まで(開場は1時)

演題：「ミニお遍路とミニ巡礼」
講師：埋蔵文化財センター職員
日時：9月17日(土)、午後1時30分から3時まで(開場は1時)

説経節上演会・歴史講座とも会場は福祉交流センター多目的ホール(取手市役所敷地内)
定員160名、当日受付順

展示説明

7月23日、8月6・7・21日、9月4・18・22日：午前11時と午後2時から
7月30日、8月27日、9月17日：午前11時から 予約不要、当日展示室においてください。

例言

1. このパンフレットは、平成28年7月19日から9月23日まで開催される取手市埋蔵文化財センター第40回企画展「西国巡礼・四国遍路・金毘羅参り」にともない、発行されたものです。
2. この企画展の企画とパンフレットの執筆・編集は、当センター職員の飯島章が担当し、その他職員の協力を得ました。
3. この企画展の開催にあたり、次の方々からのご協力とご助言をいただきました(敬称略)。記して深謝の意を表します。

海老原恒久、寺田秀也、根本浩志、野口幸子、山崎博
株式会社吉川弘文館、京都国立博物館、京都大学総合博物館、長禅寺

主な参考文献

『取手市史』通史編Ⅱ・社寺編・石造遺物編、取手市埋蔵文化財センター第4回企画展「取手ゆかりの人びとの書」・第20回企画展「取手ゆかりの人びと」・第29回企画展「街道・水運・鉄道の旅」各解説パンフレット

我孫子市史研究センター合同部会『新四国相馬霊場 大師道』、岡本亮輔『聖地巡礼』、四国八十八カ所霊場会『遍路 四国八十八カ所』、眞念著、稲田道彦訳注『四国徧禮道指南 全訳注』、高群逸枝『お遍路』・『娘巡礼記』、森正人『四国遍路』

『週刊 四国八十八カ所遍路の旅』全30巻、『週刊日本遺産No.20 四国八十八カ所』

1. 山崎庄兵衛の西国巡礼・四国遍路

(1) 稲村出立から伊勢参宮まで

明和5年(1768)の4月から7月にかけて、稲村の山崎庄兵衛は、西国三十三か所観音巡礼・四国八十八か所遍路の旅に出ています。

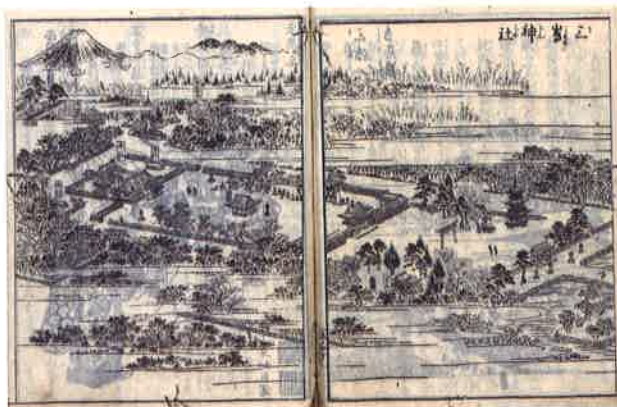
さて山崎庄兵衛の巡礼・遍路の行程は、納経帳に記された寺社名と日付から知ることができます。納経帳とは、寺院に参詣し写経を奉納した際に、その受領印(宝印)を押していただく帳簿を言います。

納経帳によれば、4月8日には江戸の寛永寺と浅草寺に参詣していることから、稲村を出立したのは、前日の4月7日と考えられます。4月8日は、お釈迦様の誕生日(灌仏会^{かんぶつえ})とされていますので、この日を巡礼・遍路始まりの日と選んだのでしょうか。

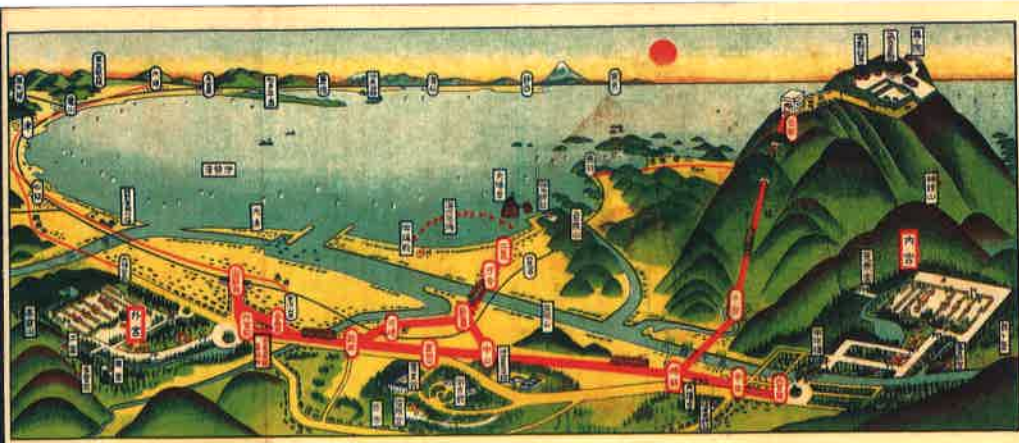
その後東海道を西に上り、4月10日には時宗の総本山である相模国藤沢の清浄光寺^{しょうじょうこうじ}(遊行寺^{ゆぎょうじ})に、4月12日には伊豆国三島の三嶋大社に参詣し、次いで4月23日には伊勢神宮(内宮)と朝熊岳金剛證寺に参詣しました。



歌川広重画 東海道五十三次の内 藤沢(個人蔵)
右側の山が、時宗総本山の清浄光寺(遊行寺)です。縦10.5cm×横16.7cmの
小判ですが、版木から刷ったものです。55枚すべてを会期中展示します。



三嶋神社(「東海道名所図会」海老原恒久家文書)
現在は、三嶋大社と呼ばれています。



伊勢参宮名所案内(個人蔵)
左側に伊勢神宮の外宮が、右側に内宮と朝熊岳金剛證寺が描かれています。大正11年(1922)5月設立の三重合同電気株式会社が、朝熊登山鉄道を合併したのが昭和3年(1928)11月、東邦電力と合併し社名が消えたのが昭和12年3月なので、昭和3年から12年頃の鳥瞰図になります。

(2) 西国巡礼

西国巡礼とは、現在の京都・大阪府、和歌山・奈良・滋賀・兵庫・岐阜県の2府5県にある観音菩薩をご本尊とする寺院33か所を、巡るものです。「法華経」に、観音菩薩が人びとをお救いになる時に、33のお姿に変化すると説かれていることに由来する信仰です。

山崎庄兵衛は、江戸を出てから22日目の4月晦日、西国1番札所の紀伊国那智礼所実方院に詣で、西国巡礼に入ります。また札所ではありませんが、高野山金剛峯寺や奈良東大寺の大仏殿、京都では方広寺大仏殿や三十三間堂などにも参詣しています。

5月23日に24番の摂津国中山寺に参詣すると四国に渡り、ここからは四国遍路となります。

四国遍路の満願成就後は、7月16日の27番播磨国円教寺から再び西国巡礼に戻ります。7月27日には33番の美濃国華厳寺に参詣し、西国巡礼も満願成就を迎えます。江戸を出てから約4か月でした。華厳寺から取手に戻るまでの足取りは、不明です。



西国1番青岸渡寺の納経印
(昭和56年12月25日、個人蔵)

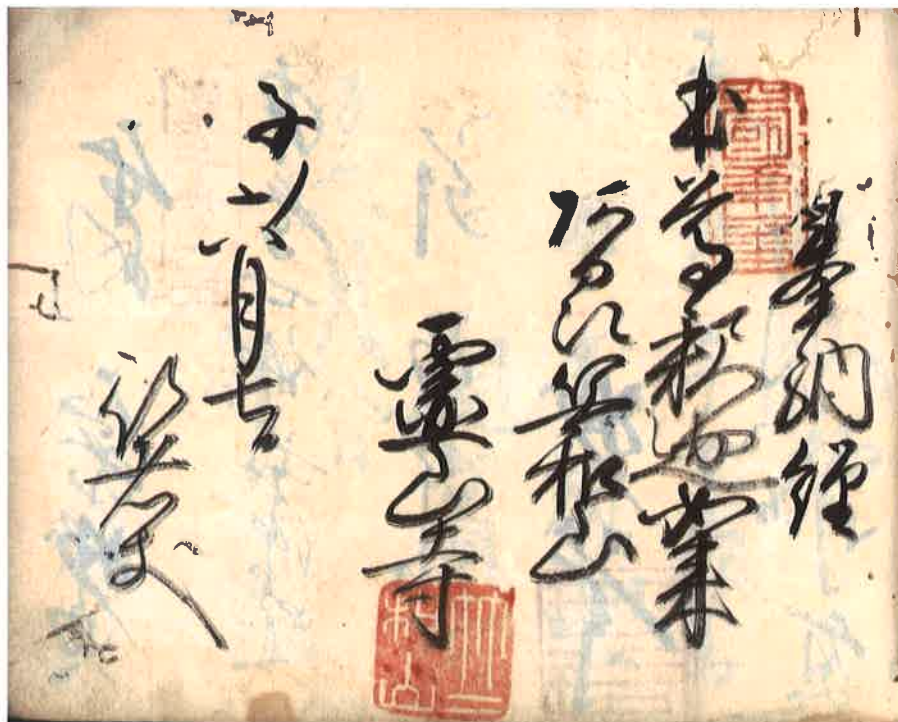


山崎庄兵衛の西国11番上醍醐寺の納経印(明和5年5月17日、個人蔵)
展示期間は、7月19日から8月19日です。

(3) 四国遍路

四国遍路とは、四国の4か国(阿波・土佐・伊予・讃岐)にある真言宗の開祖弘法大師空海ゆかりの寺院88か所を巡るものです。室町時代中ごろに起源があるとされ、本来はきびしい修業の場でしたが、江戸時代に入ると街道や宿屋が整備されたことから大衆化し、さらには旅としての娯楽的要素も含まれてきました。平成27年には、文化庁により、「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～が、日本最初の日本遺産に認定されました。

さて山崎庄兵衛の四国遍路は、78番札所の讃岐国郷照寺から始まり、88番の讃岐国大窪寺までは順に巡り、次に10番の阿波国切幡寺からは逆の順番で1番の霊山寺に向かいました。17番妙照寺、16番観音寺を参詣した後は、11番藤井寺からはほぼ順番通りに札所を巡っています。7月13日、77番札所の讃岐国道隆寺で四国遍路は満願成就となります。約40日で四国を1周したことになりますが、現在でも歩いて四国遍路を40日で巡るのは難しいとされています。こうして山崎庄兵衛は、再び西国巡礼に戻ります。



山崎庄兵衛の四国1番霊山寺の納経印(明和5年6月7日、個人蔵)
展示期間は8月20日から9月23日です。四国遍路を1番から順に巡らないのは、西国巡礼と合わせて、最も効率的な道のりを採用したからと考えられます。



四国75番善通寺の納経印(個人蔵)
善通寺は、弘法大師生誕の地に建てられたと伝えられる名刹です。印が二つ押してありますが、これは重ね判と言って、2回目以降お参りしたときに印を重ねて押してもらうものです。何回も四国遍路を巡った人の納経帳には、印の文字も読めないくらい真っ赤になったものもあります。

明和5年 山崎庄兵衛西国巡礼・四国遍路行程

日付	国	寺社名	宗派	札所	日数	日付	国	寺社名	宗派	札所	日数
4. 8	武蔵	寛永寺	天台		1	6. 11	阿波	太龍寺	真言	四国21番	64
"	"	浅草寺	"		"	"	"	平等寺	"	四国22番	65
"	相模	遊行寺	時		3	"	"	薬王寺	"	四国23番	"
12	伊豆	三島大社			5	16	土佐	最御崎寺	"	四国24番	69
"	"	三島分寺	天台		"	"	"	津照寺	"	四国25番	"
23	伊勢	伊勢神宮(内宮)			16	"	"	金剛頂寺	"	四国26番	"
"	"	朝熊岳	修験		"	17	"	常行寺	"	四国27番	70
28	紀伊	熊野新宮大社			21	18	"	大日寺	"	四国28番	71
5. 4	"	那智札所実方院	天台	西国1番	22	"	"	国分寺	"	四国29番	"
"	"	紀三井寺	"	西国2番	26	19	"	神宮寺	"	四国30番	72
5	"	粉河寺	真言	西国3番	27	"	"	竹林寺	"	四国31番	"
10	"	高野山金剛峯寺	"		32	"	"	禅師峰寺	"	四国32番	"
"	紀伊	施福院	天台	西国4番	"	"	"	雪蹊禅寺	臨濟	四国33番	"
12	河内	葛井寺	真言	西国5番	34	20	"	種間寺	真言	四国34番	73
13	大和	壺坂寺	"	西国6番	35	"	"	清滝寺	"	四国35番	"
"	"	吉野金峯山寺	"		"	"	"	青龍寺	"	四国36番	"
15	"	岡寺	"	西国7番	38	22	"	岩本寺	"	四国37番	75
"	"	長谷寺	"	西国8番	"	24	"	金剛福寺	"	四国38番	77
16	"	興福寺南円堂	法相	西国9番	39	27	伊予	観自在寺	"	四国40番	80
"	"	東大寺大仏殿	華嚴		"	"	"	観音寺	"	"	"
17	山城	三室戸寺	修験	西国10番	40	29	"	龍光寺	"	四国41番	82
"	"	醍醐寺	真言	西国11番	"	30	"	仏木寺	"	四国42番	83
"	近江	岩間寺	"	西国12番	"	7. 1	"	明石寺	天台	四国43番	84
18	"	石山寺	"	西国13番	41	"	4	大宝寺	真言	四国44番	87
"	"	三井寺	天台	西国14番	"	"	"	岩屋寺	"	四国45番	"
19	京都	行願寺	"	西国19番	42	5	"	浄瑠璃寺	"	四国46番	88
"	"	六波羅密寺	真言	西国17番	"	"	"	八坂寺	"	四国47番	"
"	"	清水寺	北法相	西国16番	"	"	"	西林寺	"	四国48番	"
"	"	今熊野観音寺	真言	西国15番	"	"	"	西浄土寺	"	四国49番	"
"	"	大仏殿	天台		"	"	"	浄繁寺	"	四国50番	"
"	"	三十三間堂	"		"	"	"	石手寺	"	四国51番	"
"	"	頂法寺六角堂	"	西国18番	"	6	"	太山寺	"	四国52番	89
20	"	清涼寺	"		43	"	"	明延寺	"	四国53番	"
21	丹波	穴生寺	"	西国21番	44	7	"	南光寺	"	四国54番	90
"	山城	善峰寺	"	西国20番	"	"	"	泰山寺	"	四国55番	"
22	摂津	総持寺	真言	西国22番	45	"	"	乘山寺	"	四国56番	"
"	"	勝尾寺	"	西国23番	"	"	"	仙遊寺	"	四国57番	"
23	"	勝尾寺	"	西国24番	46	"	"	国分寺	真言律	四国59番	"
6. 3	讃岐	郷照寺	時	四国78番	56	"	"	横峰寺	真言	四国60番	91
"	"	摩尼珠院	真言	四国79番	"	8	"	香園寺	"	四国61番	92
"	"	国分寺	"	四国80番	"	9	"	宝寿寺	"	四国62番	"
4	"	根香寺	天台	四国82番	57	"	"	吉祥寺	"	四国63番	"
"	"	一宮寺	真言	四国83番	"	"	"	前神寺	"	四国64番	"
"	"	屋島寺	"	四国84番	"	"	"	三雲寺	"	四国65番	93
5	"	八栗寺	"	四国85番	58	"	"	大興寺	"	四国66番	94
"	"	長尾寺	"	四国86番	"	"	"	神恵院	"	四国67番	"
"	"	志長寺	天台	四国87番	"	"	"	大觀音寺	"	四国68番	"
"	"	大窪寺	真言	四国88番	59	"	"	本山寺	"	四国69番	"
"	阿波	切幡寺	"	四国10番	"	"	"	本谷寺	"	四国70番	"
"	"	法輪寺	"	四国9番	"	"	"	弥谷寺	"	四国71番	95
7	"	熊谷寺	"	四国8番	60	12	讃岐	曼茶羅寺	"	四国72番	"
"	"	十楽寺	"	四国7番	"	"	"	出釈迦寺	"	四国73番	"
"	"	安楽寺	"	四国6番	"	"	"	甲山寺	"	四国74番	"
"	"	地蔵寺	"	四国5番	"	"	"	善通寺	"	四国75番	"
"	"	大金寺	"	四国4番	"	"	"	善金寺	天台	四国76番	96
"	"	極楽寺	"	四国3番	"	13	"	金倉寺	真言	四国77番	"
"	"	靈山寺	"	四国2番	"	"	"	道隆寺	"	四国78番	"
"	"	靈山寺	"	四国1番	"	16	播磨	円教寺	天台	西国27番	99
8	"	妙照寺	"	四国17番	61	17	"	一乘寺	"	西国26番	100
"	"	観音寺	"	四国16番	"	18	"	清水寺	"	西国25番	101
"	"	藤井寺	臨濟	四国11番	"	20	丹波	成相寺	真言	西国28番	103
"	"	焼山寺	真言	四国12番	62	22	"	松尾寺	"	西国29番	105
"	"	日寺	"	四国13番	"	24	近江	宝蔵寺	"	西国30番	107
"	"	常楽密寺	"	四国14番	"	"	"	長命寺	天台	西国31番	"
"	"	国分寺	曹洞	四国15番	"	25	"	観音寺	"	西国32番	108
10	"	恩山寺	真言	四国18番	63	"	"	多賀大社	"	"	"
"	"	立江寺	"	四国19番	"	27	美濃	華嚴寺	天台	西国33番	110
11	"	鶴林寺	"	四国20番	64						

四国39番延光寺、81番白峯寺は納経印なし。寺院名・宗派は、現況と異なる場合がある。

2. 海老原喜右衛門の金毘羅参り

文政7年(1824)9月20日、戸頭村の海老原喜右衛門は、四国の金毘羅参りの帰り道に京都に頼山陽を訪ねました。これは、書画を好む父に、山陽の書をみやげにと望んでのことでした。

山陽はその親を思う孝心に感激して、眼中涙をたたえながら快くその求めに応じたのでした。喜右衛門は、そのことを一刻も早く国元の父親に知らせて喜ばせようとして、その日の内に手紙を書いて出しています。

また山陽は、喜右衛門や父の号を聞き、ありふれたものではないかと為書を書き加えています。この為書こそが、山陽と喜右衛門の出会いを今に伝える貴重な史料なのです。

頼山陽は、江戸時代後期の儒学者で安永9年(1780)に生まれ、天保3年(1832)に53歳で没しています。源平二氏の興亡から徳川幕府の確立までの武家の歴史を記した「日本外史」は、代表的な著作です。

山陽が喜右衛門に贈った書(写真は裏表紙)は、文政7年3月に山陽の母が広島から京都にくるので大阪まで迎えに行った時に詠んだ詩です。この詩は、母の乗った船が風雨にはばまれて到着が遅れたので、その身を案じつつ雨だれの音を聞きながらつくったものです。喜右衛門が山陽を訪ねた時に、紹介状を書いたのが、「幕末の三筆」の一人と呼ばれる書道家で学者の市河米庵です(安永8年～安政5年:1858)。喜右衛門は、米庵の父の市川寛斎に短期間ながら弟子入りしていた関係から、紹介状を書いてもらったのです。山陽と米庵は、当時親しく交友していました。このような関係から、海老原家には米庵の筆になる「閑遊軒」の額が伝えられました。当時の有力農民の子弟が江戸に出て、有名な学者に弟子入りして勉学に励んでいた様子がうかがえます。



昭和4年6月 讃岐名所図(個人蔵)

讃岐国(現在のまほ香川県)を北から南を望んで描いた鳥瞰図です。手前が瀬戸内海で、上が南になります。右側(西)には象頭山と金刀比羅宮が、ふもとに四国75番札所の普通寺、正面が高松市で、左側(東)には84番屋島寺、85番八栗寺、86番志度寺が描かれています。



市河米庵書「閑遊軒」(取手市教育委員会蔵)

3. ミニお遍路とミニ巡礼

山崎庄兵衛や海老原喜右衛門のように、江戸時代にこれだけの巡礼・遍路の旅に出ることは、なかなかできることではありませんでした。山崎家も海老原家も、村役人を務める家でしたので、信仰心に加えてある程度の経済力があったので可能だったと言えます。

そこで、遠く四国の地まで出かけることが困難であった庶民のために、四国を遍路したのと同じご利益や功德が得られる地方版の四国八十八か所が、各地に開基されました。観光光音禪師により開基された新四国相馬霊場は、その一例です。

大鹿村の農民で穀物商を営んでいた伊勢屋源六は、宝暦10年(1760)に出家し観光光音禪師と号し、四国八十八か所霊場を遍路しました。そして各札所の砂を持ち帰り、これを近在の寺院・仏堂や神社などに埋めて札所とし、新四国相馬霊場八十八か所を開基しました。新四国相馬霊場の札所は、現在の取手市域に59か所、千葉県我孫子市に27か所、同柏市に4か所あります。これは日下総国相馬郡が、利根川をはさんで南北両側にあったからです。また番外89番札所と光音堂があります。

また市内取手にある長禅寺三世堂は、3階建てで1階には坂東三十三か所、2階には秩父三十四か所、3階には西国三十三か所の各観音札所の御本尊の写し(ミニチュア)が安置してあります。堂内は、上り専用と下り専用の階段があり、順路に沿ってお参りすれば人の流れが交差しない「さざえ堂」になっています。

このような「さざえ堂」も、巡礼の旅に出かけることがかなわなかった庶民が、一つのお堂の中を巡ることで、百か所の札所を参詣したのと同じご利益や功德を得られるようにと、建立されたものと言えます。



小文間戸田井にある新四国相馬霊場64番札所(左)と16番札所(右)
相馬霊場の札所には、このような小さなお堂が建っています。



相馬霊場1・5・87・88番の御朱印
(昭和50年8月8日、個人蔵)
相馬霊場総本地の長禅寺で
いただいたものです。



相馬霊場89番の御朱印(個人蔵)
相馬霊場には、番外89番の札所が
あります。



長禅寺三世堂(茨城県指定文化財)



長禅寺三世堂内部

待高津城別荘繁繞巖點清寂
 明鳴范志石与冬庫一以受運宗
 和比古

白雲過水亦遊魚之浪兼只此心
 君熱深無過黃道河家名到
 金尊極清高好畫將以充歸
 一歌創氏宮奏善 菊信心
 惟余襄恒初也甲中 秋初 於陽
 山陽の史兼



屋島・五剣山案内図（個人蔵）
 源平の合戦で名高い屋島には、四国84番の屋島寺が、東の五剣山には85番八栗寺が、その東には86番志度寺があります。



明治34年3月 金刀比羅宮城内殿舎附八景（個人蔵）
 右下の金刀比羅八景には、四国75番普通寺が描かれています



洛北名勝 叡山と鞍馬（個人蔵） 右下の比叡山の東側、琵琶湖のほとりに西国14番の三井寺、その下に13番の石山寺が描かれています。
 昭和4年（1929）12月に鞍馬電気鉄道の山端（現金ヶ池）・鞍馬間が全通し、山端から京都電鐵叡山電鉄の辻町柳まで乗り入れが始まりました。昭和17年3月には京福電気鉄道が設立され京都電鐵の鉄道事業を継承し、12月には鞍馬電気鉄道を合併しています。よって昭和14年から17年頃の鳥籠図になります。

取手市埋蔵文化財センター第40回企画展
 西国巡礼・四国遍路・金毘羅参り
 平成28年7月19日～9月23日
 編集／発行 取手市埋蔵文化財センター 制作／印刷 (有) 石山宣伝研究所